

## はじめに

我が国では、戦後の結核予防法に基づく総合的な対策が成果を上げ、昭和50年代前半までは、結核死亡率、罹患率が順調に低下してきました。しかし、その後罹患率の減少速度が鈍化し、平成11年には「結核緊急事態宣言」が出される事態となっています。現在でも様々な対策に取り組んでいますが、2013年の日本の結核罹患率は人口10万対16.1と先進国の中では高く、依然として中まん延状態にあります。高齢者や社会的弱者に結核発生が偏在するなどの様々な課題を抱えており、今後も一層の対策活動に取り組む必要があります。

本県の患者数を見てみると、平成25年は前年に比べ12人減少し、277人となっています。全国のデータと同様、緩やかな減少傾向にあるものの、新登録患者に占める70歳以上の割合は年々高くなっています。全国平均よりも高齢者の割合は高く、高齢化が進んでいると言えます。また保健所間での罹患率に格差が認められる場所もあります。

本県においては、「熊本県結核対策プラン」に目標値を掲げ、結核の発生予防とまん延防止、良質な医療の提供等について、市町村や医療従事者等の関係者と連携しながら取り組んでいます。平成25年の県の罹患率は人口10万人あたり15.4ポイントと昨年と比較して0.6ポイント下がっており、27年の目標値として掲げた15にあと一步で届くところとなっています。

ここに、平成25年の結核発生動向調査の結果を「熊本県の結核」として取りまとめましたので、御高覧いただき、目標値を達成すべく今後の結核対策の推進に一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

熊本県健康福祉部健康危機管理課長

一 喜美男